ROTARY CLUB OF HEKINAN WEEKLY

碧南ロータリークラブ週報

第２５１３回例会 平成22年８月25日(水)

◎会長 奥田　雪雄 ◎幹事 新美　宗和 ◎会場監督（SAA） 伊藤　正幸

■例 会 日　毎週水曜日　12：30　■例 会 場　碧南商工会議所ホール
■事 務 局　碧南商工会議所内　〒447−8501　愛知県碧南市源氏神明町90
TEL〈0566〉41−1100　FAX〈0566〉48−1100
ホームページ：http://www.hekinan-rc.jp/
E−mail:info@hekinan-rc.jp
■会報委員　新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原　優

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

地域を育み、大陸をつなぐ

● 斉　唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当　大正館

会　長　挨　拶

奥田雪雄会長

処暑―季節を送る風―、「処」はもともと、「来て止まる」という意味をもった漢字だといいますが、ここでは暑さがおさまるという意味です。

このころから朝晩の涼しさが実感できるようになってくるはずですが、今年はまだまだ猛暑がつづきそうです。お身体には十分にお気をつけ下さい。

お盆の精霊を見送ってから吹く南風を「お送くれまぜ南風」（おくれまじ）といいます。これは地方によって微妙に意味が違うようで、夏の終りごろに吹く南南西の風であったり、六、七月に何回も続く風のことだったりします。「お送くれまぜ南風」は精霊を送るという大役をにない、夏の終わりを告げながら吹き抜けていきます。私たちもそんな南風といっしょに亡くなった人をしのび、季節を見送って本格的な秋を迎えるわけです。

個人事になりますが、皆さん御存知の綿はアオイ科の植物で、「綿の花」はたち立あおい葵に似た淡い黄色の花です。こんなにきれいでやさしい花が咲くのに、私たちが通常「綿花」と呼んでいるのはこの花のことではありません。

花が咲いたあとには、まあるいふくらんだ青い実ができます。それが熟すると、はじけてまっ白なふわふわした綿花が顔をのぞかせます。本当は種にくっついている毛なのですが、これを「綿花」と呼んでいるのです。触ってみるとやっぱりあったかい。それもそのはず。種を大切にくるんで守っているのですから。

毎年、今頃の時期になると小学校以来の友人が、青い実をつけた「綿花」を決まって持ってきてくれました。その実が12月のクリスマスにあわせて、ちょうどはじけるようにと。そんな友も今はいません。２年前に突然他界してしまいました。そんな「綿花」を大事にしています。12月になると、クリスマスの木をまっ白に飾ってくれます。友がしのばれてなりません。なつかしく、いい思い出です。

ありがとうございました。

幹　事　報　告

平岩辰之副幹事

・例会変更等はお手元の幹事報告書のとおりです
・8月18日大正館様にて新入会員オリエンテーションが開催されました。週報に写真が掲載されています。
・第2760地区ガバナー事務所より「アクション油ケ淵イン高浜」の案内が届いております。
・次週は、ガバナー補佐訪問ですが、服装はクールビズで結構です。
・次週例会終了後クラブ協議会を開催しますので、各委員長には委員会の事業計画について発表をお願いします。

委 員 会 報 告

〈出席奨励委員会〉

総会員数74名(内出席免除者15名の内出席者９名)出席者56名	
出席対象者　56／67名	出　　席　　率　83.58%
欠席者18名(病欠者１名)	前々回修正出席率　98.55 %

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

加藤　良邦君　去る８月22日（日）地蔵盆を終え平成22年度盆の行事、お陰様にて全て終える事が出来ました。有難う御座いました。
８月22日藤井達吉翁「鶏頭忌」の法要をつとめさせて頂き又、中日新聞に載せて頂きました。長田豊治さんを始め皆様方に大変お世話になりました。

杉浦　勝典君　８月19日から３日間、愛知県陶器瓦工業組合合同で上海国際建築建材展に出展しました。19名の視察団の団長で出掛けました。期待の大きな市場で希望が持てました。

長田　豊治君　８月18日に新入会員オリエンテーションが無事に済み、ロータリー情報委員会の肩の荷が降りました。皆様に感謝いたします。
８月22日（日）に藤井達吉翁追弔会鶏頭忌が毘沙門天妙福寺様にて多くの皆様のご参加を得て無事に開催できました。皆様に感謝感謝です。有難うございました。拝

伊藤　正幸君　新美真司さん、角谷信二さん、ご迷惑おかけしました。

奥田　雪雄君　新入会員オリエンテーションへの出席ありがとうございました。
８月22日藤井達吉翁「鶏頭忌」に出席させていただきました。

角谷　信二君　碧南高等学校ヨット部女子ソロの部インターハイにて全国優勝しました。

竹中　　誠君　久しぶりに良い事が続きました。

榊原　　健君　８月21～22日２日間、少年サッカーの大会碧南サマーカップ2010を県外・県内17チームを招待し開催しました。無事終了しました。石川春久体協会長には開会式出席・御挨拶戴きましてありがとうございました。

杉浦　保子君　本日はつたない卓話をさせていただきます。

鈴木　宏枝君　本日卓話をさせて頂きます。

卓　　話　「私の履歴書」

杉浦　保子君

杉浦　保子君

こんにちは親睦活動委員会の杉浦保子です。
入会してもう半年になります。本日は「私の履歴書」と題して卓話をさ

せていただきます。なにぶんにも不慣れな私です。お聞き苦しいかと存じますがしばらくお耳を拝借いたします。

私は昭和26年３月２日、父昇一と母たつみの長女として生を受けました。当時の家族構成は両親、祖父母、曾祖父母、父の兄弟６人の計12人の大家族でした。父の兄弟達が次々独立してゆく中私には３人の妹達が誕生し、住み込みの仲居さんが加わり相変わらずの大所帯で幼少期を過ごしました。小学校４年生の時、信心深いひいおじいさんが他界、このおじいさんからは寝る時は必ず仏壇の前で手を合わせ、「今日も一日ありがとうございました。」と言わないと休むことはできず、いただいたものは仏壇に供えてからでないと食べてはいけない。厳しい人でした。その年、母は脳腫瘍を患い、右目を失明し身体障害者となり自宅で闘病生活をおくることとなりました。子育ても店の仕事もままならず、二人のお婆さんに託されました。

４人の娘を成人させる為にひいおばあさんは家事と子育て、真ん中のおばあさんは店で女将さんとして働き、家族はそれぞれの役割を精一杯務めていたと思います。当の私は自分のことは自分ですることが暗黙のうちに課せられ、妹達も大人たちの手をやかせないように、甘えたくても甘えないよう生活していました。小、中と地元の学校で過ごし、先生や男の子からは、名前でなく「おい大正館」と呼ばれ、とてもいやな思いをした事を今も覚えています。私は絶対お嫁に行こう、できたらサラリーマンで日曜日がお休みの人がいいと，思ったものです。

高校は名古屋の高蔵高校、当時の愛読書は「風とともに去りぬ」主人公のスカーレットオハラのように力強くさっそうと生きる姿に憧れました。この時期に祖父が他界、このおじいさんは大正館の二代目で趣味に生け花、茶道、浄瑠璃と人生を仕事だけでなく人生を豊かに楽しむことを教わりました。短大は犬山の市邨学園家政課栄養士。学生寮に入り２年間をコーラス部に所属し青春時代を大正館から離れて過ごしました。昭和46年卒業後大正館に入社いたしました。

当時の我が家は両親、二人のお婆さん３人の妹と父の末の弟の９人と住み込みの仲居さんや板前さんを含め14人という相変わらずの大所帯。老いてきた二人のおばあさんと脳腫瘍が再発していた母の介護と店の仕事でフル回転の日々。21歳の時母が他界。母からは健康でいられることの大切さを学びました。翌年父は店と家族の為に過ごしていた私にご褒美をくれました。第一回JC青年の船「とうかい号」に乗船させてくれたのです。碧南から10人。私は２週間日常から解放されて同世代の異業種の東海４県の方と友情を深めセミナーを受け、たくさんの刺激をいただき、日本人に生まれてよかった！！たくさんの家族でよかった！！と実感して下船しました。

25歳の時店を切り盛りしていたお婆さんが他界。このおばあさんからは従業員さんと仕入れ先の方を大切にすることを学びました。27歳で長久手の叔母の紹介で建設会社に勤務していた主人と結婚、同時に主人は大正館入社、翌年長男を出産、90歳になっていたひいおばあさんを自宅で看取りました。このおばあさんからは慈悲の心を学びました。そして３人の妹を嫁がせ、昭和57年次男を出産し家族は５人、ずいぶん少なくなりました。子育てと店の仕事をする中ささやかながら楽しみにしている趣味があります。俳句と「へたがいい」のキャッチフレーズの絵手紙です。今日のお弁当の箸袋も絵手紙です。どうぞ、笑って下さい。この二つの趣味は一人でできて、気分転換になりストレス解消です。

長男は東京で起業し東京暮らし、次男は店に入ってくれ主人を助けてくれています。昨年私の最愛の父が80歳で他界しました。他家に嫁がず父のそばで暮せてよかったです。父の後ろ姿からは家族はもちろんお客様とのご縁の大切さや仕事の厳しさを教えてもらいました。亡くなった私の家族からいろいろ教わったはずの私はまだ何も身についていません。恥ずかしいかぎりです。

店は今年創業96年です。100年に向かって家族と従業員さんと地域の皆さんに支えていただいて、またロータリークラブの会員の皆さんと豊かな人間関係育む中で私自身も成長してゆけたらと願っています。恥ずかしながら本日の一句

『自分史の慣れぬ卓話に夏果てり』
本日はこのような機会を与えて下さってありがとうございました。

鈴木　宏枝君

鈴木　宏枝君

初めてお話させて頂きます。お世話になりました亡き父が、どのようなお話をしておりましたやら、聞く機会も又関心も持たずに過ごしておりましたので、ちょっと教えてもらっておけばよかったなと今後悔しております。一国一城の主である皆様方ですし、大先輩もいらっしゃるので私の拙い歩みの人生をどのようにお話すればよいのか、頭の中がちっともまとまらなくて本当に困りました。私は、生き方として、何々一筋と答えられる方を常々羨ましいなあと思っておりますので、私の過して来た道が、なんてふらふら千鳥足状態なんだろうと、本人がいつも悩んでいることをまず分かって頂ければ幸いに思います。

今回、私の履歴ということで72年間を改めて振り返ってみました。

結論を一言で言えば、何時私が消えても「ああーそう」ということで済み、言い換えれば大変自由で幸せだと言うことが分かり、これからがとても楽しくなりそうです。

昭和12年、支那事変がおこり、結婚１年２ヶ月の父は大きなお腹の母を残し出征いたしました。私はその翌年13年１月父32才、母22才の長女として生まれました。父は初めての子供の写真を戦地で見たといっておりました。

その後、昭和16年には大東亜戦争(太平洋戦争)が始まりましたから、私の記憶の始まりは、父の軍服からです。終戦時は大尉だったのですが、中尉時代がほとんどだったと聞いております。休暇で帰ったときなど、私に軍服を着せることが楽しかったらしく、上着の裾が畳についた、つかないと言って大きくなったことを喜んでいたと聞いており、記憶としても少し残っております。父は幸いと申しましょうか戦地でマラリアになり終戦の時は内地に戻されておりましたので、戦後は出征前にご奉仕しておりました大阪の神社にもどり、その後は伊勢、京都、碧南と神職として過ごしました。私が４才になった時母は結核と診断されました。父の出征中のことで、祖父母はすでに亡くなっておりましたので、私は静岡の遠い親戚であるお寺に預けられ、母は岡崎で療養生活をすることとなりました。

戦争真最中で、お寺は地区の人達のバケツリレーの消火訓練場所となり、押し入れの前に布団を積み上げて焼夷弾対策やらと皆真剣でした。その頃、千人針も盛んで、布と赤い糸の通った針を持った女の人に、「寅は千里を駈ける」と言う縁起から、子供でありながら寅歳ということで、まわりの大人からやってあげなさいと言われるまま、千人針に参加し、喜んでもらえることが嬉しかったことを覚えています。人に頼まれると断ることが出来ない私ができた原点かも知れません。勿論父へも千人針を送りました、今ここに持ってきております。父の荷物の中からみつけました。66年も前になり戦地にも行っておりますので、相当汚くなっておりますけれど、まだ処分出来ずに置いてあります。

昭和19年に静岡で小学校に入りましたが、翌20年の春、母が良くなったからと迎えに来てくれ碧南の家で暮らし始めました。通い始めた大浜小学校の最初の夏休みに、終戦の玉音放送があり、押し入れに入れたラジオの前で正座して聞きました。小学２年生にはよく良くわかりませんでしたけれど母は「終ったんだねえ」と言っていたようで、母と二人の懐かしい風景が思い出されます。その後の母は、私が小学６年の時、病気を再発し入退院を繰り返しながら、戦後の医療の人体実験の如くの一生をおくり、孫の顔を見るまで生きてくれました。私は子供時代より両親揃って一緒に暮らした思い出はありません、いつも片親ずつだったのですが、それはどうしょうもない現実のなかで当たり前なんだと思っていました。父もまわりの人も小さい頃よりずっと「お母

さんは体が弱いのだからお手伝いをしてあげなさいよ」というのが私に対する教育でした。これは後々学校選びなど大きな足枷となりましたが、今になれば私の性格形成には良かったんだと思います。

ここまでは、まだまだ人生のほんの始まりで、あとの方が長いのですが、私というものが出来たスタート部分ですので、お許しいただきたいと思います。

皆さんはイソップのお話のなかでこういうのをご存じでしょうか、私の好きなお話の一つです。全能の神ゼウスは人間をつくった時、その寿命を短くしました。けれど人間はその知恵で寒い冬は家を建てて家の中で暮らす事が出来ました。ある時寒さに我慢できなくなった馬が人間の所へやって来てどうか宿を貸して下さいと頼みました。

人間は、お前の寿命をいくらか分けてくれるのならそうしてやろうと答えました、馬は喜んで寿命を譲りました。しばらくして牛がやってきて家に入れてほしいと頼んだので、人間は牛からも寿命を分けてもらい家にいれてやりました。最後に寒さで死にそうになった犬がやって来たので、人間は犬からも寿命を分けてもらうことにしました。

さて、この後どうなったかご存じでしょうか、人間は、神様からもらった年齢のうちは無邪気で善良で過ごせるが、馬からもらった年齢に入るとほら吹きで高慢になり、牛の年齢になると他を支配したがり、犬の年齢に達すると短気で怒りっぽくなるのだそうです。

私は今、どのあたりにさしかかっているのか分かりませんが、最近は少し恐怖を感じつつ過ごしております。それぞれ幾つなのかは書いてありませんけれど、馬齢、牛齢、犬齢をなるべく使いたくないと思って過しておりますがもう手遅れかもしれません。でも全部を使い果たすとあとはどうなるのでしょうか。教えて頂きたいと思います。

本日はこれにて終ります。ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内　平成22年９月８日（水）

クラブフォーラム　青少年育成活動助成金贈呈

碧南市スポーツ少年団
本部長 石川宇一氏

碧南市スカウト育成連絡協議会　１団ボーイ隊
隊長 小島壮持氏